

“得”補語文に受事“N2”が表れる表現 補語とその叙述対象

勝川裕子

§0. 本稿の視点

0.1 本稿が考察対象とする“得”補語文¹とは、動詞“V”が後置成分“得”を伴い、その動作、行為の行われ方がどのようなものであるかを具体的に描写する表現形式を指すが、このような表現形式において、動詞“V”の受事として、さらにひとつの名詞性成分“N2”が加わるとき、“N2”の処理に関連して主に以下に挙げる三つの表現形式から選択されるとされている。

- (0-1) 张三念课文念得很熟。[張三は課文を読むのが上手だ/上手だった]
- (0-2) 张三把课文念得很熟。[同上]
- (0-3) 张三课文念得很熟。[同上]

この三つの表現形式は、文法書などにおいては、“得”補語文に受事“N2”を導入する際の処理法として同じ発話環境ですべての表現形式が成立するとされている。確かに、上の三つの表現形式は、知的意味は同一であるとみてよい。しかし、全く同じ意味機能を有する複数の表現形式が、全く同等に、或いは同一の条件や発話環境のもとに存在するということはあり得ない。現実の言語生活において、上に挙げた表現形式が常に成立するとは限らず、仮に成立したとしても発話環境はそれぞれ異なり、使い分けがなされていることからそれは明らかである。然らば、その使い分けには如何なるメカニズムが存在するのであろうか。

0.2 本稿ではまず、所謂“得”補語文において、二つの名詞性成分“N1”“N2”が表れるときに成立し得る三つの表現形式、)【N1 + V + N2 + V得 + C】、)

¹ 一般に“V得”に後続する補語の名称には、程度補語・状態補語・様態補語などが挙げられるが、それぞれが規定する概念範疇は大きく異なる。本稿では、“V得”の後ろに補語成分を伴う表現形式を一律に“得”補語文」と称することにする。

勝川裕子

【N1 + 把 + N2 + V得 + C】、) 【N1 + N2 + V得 + C】について、統語的・意味的特徴を抽出していく。² そして、同時にそれぞれの表現形式が選択されるメカニズムについて、補語成分“C”が何を叙述するかという観点から論じていく。

§ 1. “得”補語文の叙述対象

1.1 刘月华2001は“得”補語文を、当該構文が表す意味を根拠に、動作自身に対して描写、評価、判断を行うものと、動作が実現した結果、発生した施事(あるいは当事者)もしくは受事の様態を描写するものの二種類に下位分類している。³ 刘月华2001の分類に依れば、表現例(1-1)は前者に、表現例(1-2)、(1-3)は後者に属することになる。

(1-1) 阿里写汉字写得清楚。[アリは漢字をきれいに書く]

(1-2) 他看书看得忘了吃饭。

[彼は読書に熱中してごはんを食べるのも忘れた]

(1-3) 我惹她惹得生气了。

[私は彼女の気持ちを逆撫でして怒らせてしまった]

表現例(1-1)のタイプは、一般に形容詞フレーズが補語となり、恒常的・習慣的に行われることや、既に実現済みのこと(もしくは実現保証付き、必ずそうなること)についてどのようなかを描写する。一方、表現例(1-2)、(1-3)のタイプは、述語動詞(もしくは形容詞)がしばしば原因を表し、補語成分が結果 即ち動作や状況が施事(当事者)または受事に何らかの様態を出現させることを表す。⁴

² 以下、記述の便宜を図るため、他動詞を“V”、動作の施事を“N1”、受事を“N2”、補語成分となる動詞句・形容詞句を“C”と表記する。また、表現例の文法性についてはインフォーマントに判断を仰いだ。「*」は非文を、「?/?/?」は不自然、もしくはインフォーマントの意見が分かれたことを示す。

³ 曹逢甫1990も刘月华2001と同様に“得”補語文を二分しており、特に前者を descriptive complement、後者を resultative complement と称している。

⁴ 刘月华2001は、受事“N2”を伴う“得”補語文のなかでも特に動詞反復形式 即ち本稿でいうところの【N1 + V + N2 + V得 + C】 において、第一の動詞を「省略」できるか否

1.2 ここで、少し視点を変えて、補語成分の叙述対象という角度から上の表現例を見てみよう。表現例(1-1)における補語成分“很清楚”は動作・行為“写”の行われ方を描写しており、表現例(1-2)は“看书”の結果、“忘了吃饭”した施事(本稿でいうところの“N1”)“他”の様態を、表現例(1-3)は受事(本稿でいうところの“N2”)“她”が“生气”している様態をそれぞれ描写している。このように見てくると、受事“N2”を伴う“得”補語文中における補語成分“C”は、他動詞“V”、施事“N1”、受事“N2”のいずれかを叙述対象とすることが分かる。

次章からはまず、“得”補語文が受事“N2”を伴うとき、補語成分“C”が“V”、“N1”、“N2”のいずれを叙述するかという観点から、)【N1+V+N2+V得+C】、)【N1+把+N2+V得+C】、)【N1+N2+V得+C】の三つの表現形式について、それぞれ統語的・意味的特徴を抽出していく。

§2. 補語成分“C”が他動詞“V”を叙述するとき

2.1 まず、動詞反復式である)式【N1+V+N2+V得+C】について考察する。

(2-1) 他说英语说得很流利。[彼は英語を話すのが流暢だ/流暢だった]

(2-2) 我儿子学话学得很快。

[うちの息子は言葉を覚えるのが速い/速かった]

(2-3) 李四养猪养得真好。

[李四は豚を育てるのが(養豚が)本当に上手だ/上手だった]

表現例(2-1)から(2-3)に挙げるように、)式は容易に成立する。しかし、この成立の背景にはさまざまな統語的制約が存在する。表現例(2-1)を取り挙げて説明してみよう。

まず、“说得很流利”の“很流利”は、“说英语”という行為から“说”を取り出し、その程度・様態を説明したものであり、この他動詞“说”に“得”が付加

かを、上述の分類の統語的根拠として示している(597頁-600頁)。この主張の妥当性については、次章で検討する。

勝川裕子

されると、述詞は独立した語としての機能を失い、単独では述語となることができなくなる⁵ことは周知の事実である。その証拠に、この動詞くずれ“V得”は、否定辞“不”を取ることもできなければ、賓語（本稿でいうところの受事“N2”）を取ることもできない。

- (2-4) *我不来得很晚。 (2-4)´ 我来得不晚。
(2-5) *你跳舞得真好。 (2-5)´ 你跳舞跳得真好。

そこで受事“N2”の処理に関して、表現例(2-5)´のタイプ（即ち）式が選択されるのであるが、【N1+V+N2+V得+C】における第一の“V”自体も、アスペクト辞“了/着/过”を付加することはできず、また副詞の修飾を受けることもできないことから、一般の述語動詞としての性格を失っていることが窺い知れる。また、受事“N2”は総称（non-referential）である場合が多く、“这/那”のような指示詞がついて“N2”が具体的な事物を指すこともない。⁶即ち、“V+N2”は動作を概念的に表現しているに過ぎず、表現例(2-1)について言えば、“说英语”は“说得很流利”が描写する範囲を限定する役割を果たしているに過ぎないのである。このような統語的特徴により、（）式は施事“N1”の属性行為の恒常性・習慣性によってもたらされたものを含む（）を描写する傾向にある（表現例(0-1)、(1-1)、(2-1)、(2-2)、(2-3)、(2-5)´参照）。

2.2 このような意味的特徴は、次に考察する（）式【N1+把+N2+V得+C】や（）式【N1+N2+V得+C】の成立不成立にも大きく関与している。

- (2-6) ?他把英语说得很流利。
(2-7) ?我儿子把话学得很快。
(2-8) 李四把猪养得真好。[李四是豚をうまく育てた]
(2-9) 他把他的论点证实得很精确。[彼は彼の論点を緻密に実証した]

（）式【N1+把+N2+V得+C】は（）式ほど自由に成立しない。その理由はや

⁵ このような統語機能に基づき、杉村1994は“得”を「述詞（動詞・形容詞）の非述語化辞」と称している。

⁶ 例えば、“?他写这个字写得不错”[?彼はこの字が上手だ]などは、よほど特殊な文脈が用意されない限り不自然であると、杉村1976は指摘している。

はり“把”構文のもつ統語的制約にある。)式の表現例(2-1)、(2-2)は成立するのに対し、受事“N2”を“把”で導くと文法性が低くなるのは、表現例(2-6)、(2-7)における“N2”(“英語”、“話”)がある特定の個別的な“英語”や“話”を指すとは考えにくく、賓語に対する積極的な働きかけを表現する“把”構文の統語的制約に抵触するからである。⁷ また、表現例(2-3)と(2-8)を比較すると、)式の(2-3)は「李四の養豚技術が高いこと」を叙述しているのに対し、)式の(2-8)は「今飼育している(特定の)豚が健康に育っている」つまり豚の状態が“真好”であると解釈される。⁸ このように見てくると、)式【N1+把+N2+V得+C】は表現例(2-8)、(2-9)のように成立する表現であっても、)式のように施事“N1”の恒常的・習慣的特徴を述べるのではなく、実現済みの一回性の事柄を描写する表現形式であることが窺い知れる。

2.3 次に、)【N1+N2+V得+C】の統語的・意味的特徴を考察していく。

- (2-10) 他英语说得很流利。[彼は英語を話すのが流暢だ]
- (2-11) 我儿子话学得很快。[うちの息子は言葉を覚えるのが速い]
- (2-12) ??她桌子擦得很干净。
- (2-13) *他他的论点证实得很精确。

刘月华2001の指摘にもあるように、補語成分“C”が他動詞“V”を叙述対象とするとき、第一の動詞は「省略」することができ、)式から)式への変換が可能であるとされているが、常にそれが可能であるわけではない。然らば、)式成立には如何なる統語的制約が存在するのであろうか。

一般に、)式は)式における第一動詞を「省略」した、賓語(本稿では受事“N2”)繰り上げ形式(SOV得C)であると説明されることが多いが、言語分析は個別の、あるがままの表現形式を対象とするものでなければならず、第一動詞の「省略」であるとか、賓語の提前形式であるなどとみることが妥当ではない。従って、本稿は)式を、“N1”を全文の主語(S)、“N2”を述語部分の主語(S´)とする主述述語文であると考え。

⁷ 日本語でも、[?彼はその英語を話すのが流暢だ]や[?うちの息子はその言葉を覚えるのが速い]は特殊な文脈の支持がない限り、不自然であると認識される。

⁸ 刘月华2001の指摘による。

現代中国語では、所謂主述述語文（SS´V）において、全文の主語（S）と述語部分の主語（S´）の間に「所有 - 被所有、全体 - 部分」の関係が認められることが古くから指摘されている⁹が、このタイプの主述述語文は、対応する事態のタイプによってさらに大きく二つに分類される。一つは、“我肚子疼” [私は腹が痛い]に代表される、感覚・知覚・感情など心身における内的経験を表すタイプであり、一つは“小李眼睛大” [李君は目が大きい]に代表される、人や事物についての形状や性質に関する状況を述べるタイプである。¹⁰ ここで特に後者のタイプに注目してみると、表現例（2 - 14）、（2 - 15）における述語部分S´Vが全文の主語Sの属性を描写していることが分かる。

（2 - 14） 小李家里穷。 [李君は家が貧しい]

（2 - 15） 他书很多。 [彼は本が多い（彼は蔵書家だ）]

従って、このタイプの主述述語文は、S´Vという主述構造の表す事態が何らかの意味でSの属性を叙述するとき成立するのであって、表現例（2 - 16）はこのような属性解釈ができないため、特別な文脈の支え無しには成立が難しいのである。

（2 - 16） ??她桌子很大。 [??彼女は机が大きい]

このような主述述語文の意味的特徴は、 $(N_1 + N_2 + V_{得} + C)$ 式【N1 + N2 + V得 + C】にも反映されており、表現例（2 - 10）では“英语说得流利”が“他”の属性を、表現例（2 - 11）では“话学得很快”が“我儿子”の属性をそれぞれ描写している。一方、表現例（2 - 12）がきわめて不自然であるのは、“桌子擦得很干净”が“她”の恒常的・習慣的特徴を叙述しているとは解釈されにくいためであり、表現例（2 - 13）に至っては、全くの非文となってしまう。このことから、述語部分“N2 + V得 + C”が“N1”の属性を描写しているか否かが $(N_1 + N_2 + V_{得} + C)$ 式成立を左右する条件であることが窺い知れる。

⁹ 朱德熙1982：106 - 108頁。主述述語文には、本稿で挙げたようなSとS´が「所有 - 被所有、全体 - 部分」の関係にあるタイプ以外にも、S（もしくはS´）が後に続く動詞の受動者であるタイプ（“那条鱼猫吃光了”）や、Sが道具であるタイプ（“这副眼镜我看书用”）なども含まれる。

¹⁰ 木村1998：96頁。

§3. 補語成分“C”が施事“N1”を叙述するとき

3.1 次に補語成分“C”が施事“N1”を叙述する場合について考察していく。前述したように、このタイプは、述語動詞（もしくは形容詞）がしばしば原因を表し、補語成分がその結果（即ち動作や状況が施事（当事者）に何らかの様態を出現させることを描写する。¹¹

以下に挙げる)式【N1 + V + N2 + V得 + C】を用いた表現例は、すべて自然な表現として成立する。

- (3-1) 我搬东西搬得出了一身的汗。[私は荷物を運んで体中汗をかいた]
- (3-2) 她找孩子找得连饭都吃不下去了。
[彼女は子供を捜して食事も喉を通らなくなった]
- (3-3) 财主打长青打得累了，暂时把长青吊在马棚的二梁上。
[地主は長青を殴り疲れ、一時長青を馬小屋の梁に吊るした]
- (3-4) 那小孩儿追我追得直喘气。[その子供は私を追って息切れしている]

表現例(3-1)における補語成分“出了一身的汗”は、“搬东西”した結果出現した施事“我”の様態を、表現例(3-2)における補語成分“连饭都吃不下去了”は、“找孩子”した結果出現した“她”の様態を表している。表現例(3-3)、(3-4)における補語成分も同様に、それぞれ施事“财主”、“那小孩儿”の様態を描写している。また、2.1で考察した)式が、施事“N1”の属性（即ち恒常的・習慣的特徴を描写するものであったのに対し、このタイプからはそのような経常性を読み取ることはできない。¹²

3.2 一方、補語成分“C”が施事“N1”を叙述するとき、)式【N1 + 把 + N2 +

¹¹ 従って、このタイプは“是…的”構文に変換することができると、杉村・木村1995（朱徳熙1982の訳注参照）は指摘している。例えば、表現例(1-2)“他看书看得忘了吃饭”は“他忘了吃饭，是看书看的”[彼はごはんを食べるのを忘れた、本を（熱中して）読んだためだ]と変換することができる。補語成分“C”が他動詞“V”を叙述するタイプにはそれができない。

¹² “我搬东西总是搬得出汗”[私は荷物を運ぶといつも汗だくなる]のように、恒常性を表す副詞の修飾を受ける場合や一定の文脈の影響下においては、この限りではない。

勝川裕子

V得 + C】は成立しない。

(3 - 5) *我把东西搬得出了一身的汗。

(3 - 6) *她把孩子找得连饭都吃不下去了。

(3 - 7) ?? 财主把长青打得累了，暂时把长青吊在马棚的二梁上。

[??地主に殴られて長青は疲れてしまい、一時長青を馬小屋の梁に吊るした]

(3 - 8) ?那小孩儿把我追得直喘气。

[その子供に追われて私は息切れしている]

ここで興味深いのは、表現例(3 - 7)、(3 - 8)における補語成分“C”の叙述対象は、施事“N1”(“财主”、“那小孩儿”)ではなく、受事“N2”(“长青”、“我”)であると理解されることである。¹³

一般に「処置式」と称される“把”構文を用いる以上、発話者の焦点は受事“N2”にあり、“N2”についてその様態を描写することにはなんら矛盾はない。表現例(3 - 5)、(3 - 6)が非文となるのは、“把”によって受事“N2”(“东西”、“孩子”総称ではなく、特定の存在)に焦点を当てながらも、補語成分“C”が施事“N1”を叙述しようとしているところに、意味的な矛盾が生じるからであると考えることができる。

3.3 また、以下に挙げる表現例(3 - 9)、(3 - 10)は)式【N1 + N2 + V得 + C】であるが、いずれも不自然な表現である。¹⁴

(3 - 9) ??他书看得忘了吃饭。

(3 - 10) ??我东西搬得出了一身的汗。

本稿では2.3において、)式は述語部分“N2 + V得 + C”が“N1”の属性表現と

¹³ 表現例(3 - 4)、(3 - 8)は肖奚强・张亚军1990の指摘による。この点については、李临定1963も言及している。

¹⁴ “他,书看得忘了吃饭”のように“他”と“书看得忘了吃饭”の間にポーズを置いて、topic-commentの形式を取る場合は成立する。しかし、表現例(2 - 10)“他英语说得很流利”を“他的英语说得很流利”のように、“N1”と“N2”を「所有 - 被所有」で関係付けることができるのに対し、このタイプは“*他的书看得忘了吃饭”とすることはできない。

“得”補語文に受事“N2”が表れる表現

なり得る場合に限り成立すると定義した。この定義に照らし合わせて上の表現例を見ると、表現例(3-9)における“书看得忘了吃饭”は施事“他”の恒常的・習慣的特徴 即ち属性を描写し得ず、表現例(3-10)における“东西搬得出了一身的汗”も同様に施事“我”の属性を描写し得ないため不自然な表現となることが分かる。表現例(3-9)、(3-10)が非文であることは、この定義を支持する有力な根拠である。

§ 4. 補語成分“C”が受事“N2”を叙述するとき

4.1 補語成分“C”が施事“N1”を叙述するとき、)式【N1+V+N2+V得+C】が選択され、補語成分“C”が受事“N2”を叙述するとき、)式【N1+把+N2+V得+C】が選択される傾向にあることは3.2で考察してきた。

- (4-1) ?? 王五喂猪喂得越来越胖。
[??王五是豚を飼育して、(王五是)ますます太った]
- (4-2) 王五把猪喂得越来越胖。
[王五是豚を飼育して、(豚は)ますます太った]

従って、)式【N1+V+N2+V得+C】である表現例(4-1)は、補語成分“越来越胖”が施事“王五”の様態を叙述すると理解され、その結果因果関係に矛盾が生じ、不自然な表現であると判断されるのである。同様に、以下に挙げる表現例(4-3)から(4-6)はすべて、)式【N1+把+N2+V得+C】を用いると極めて自然な表現となる。

- (4-3) ?? 他踢小杨树踢得哗哗直抖。
(4-4) ?小张关门关得严严的。¹⁵

¹⁵ 表現例(4-4)に関しては、“?小张关门关得严严的”を自然な表現であると判断したインフォーマントも多数存在した。しかし、“小张把门关得严严的”とニュアンスを比較した際、“小张关门关得严严的”は、「小張がドアを閉めた結果、ドアは(自然に/必然的に)ピッタリと閉まった(状態にある)」という付随の意味を含意するのに対し、“小张把门关得严严的”は「小張が(意識的に)ドアをピッタリと閉めた」という意図の意味を含意する、との指摘を受けた。ここにも“把”構文の意味特徴を見出すことができる。

勝川裕子

- (4-5) ?老二刮胡子刮得光光的。
(4-6) *她压声音压得低低的。
(4-3)´ 他把小杨树踢得哗哗直抖。
[彼は丈の低い楊樹を蹴ると、楊樹はざわざわと揺れた]
(4-4)´ 小张把门关得严严的。
[小張はドアを一分の隙間もなくピタリと閉めた]
(4-5)´ 老二把胡子刮得光光的。
[老二是髭をツルツルに剃った]
(4-6)´ 她把声音压得低低的。[彼女は声を低く低くおさえた]

また、表現例(4-3)´から(4-6)´における受事“N2”は“把”によって導かれているためdefiniteな存在であると理解される。従って表現例(4-3)´から(4-6)´はすべて、既実現済みの個別的な事態に対する描写であり、施事“N1”の属性を描写するものではない。

4.2)式【N1 + N2 + V得 + C】の成立不成立については、やはり述語部分“N2 + V得 + C”の“N1”に対する属性描写という観点から説明することができる。

- (4-7) *他小杨树踢得哗哗直抖。
(4-8) ?小张门关得严严的。[小張はドアをぴったりと閉め切っている]
(4-9) 老二胡子刮得光光的。[老二的髭はツルツルに剃ってある]
(4-10) 她腰板儿挺得直直的，显得很健壮。
[彼女は腰がしゃんと伸びており、いかにも壮健そうだ]

表現例(4-9)、(4-10)は述語部分“N2 + V得 + C”(“胡子刮得光光的”、“腰板儿挺得直直的”)が施事“N1”(“老二”、“她”)の身体の一部の様態を描写しており、これは即ち施事“N1”の恒常的・習慣的特徴を描写することに他ならない。また、表現例(4-8)はインフォーマントにより意見が分かれたが、自然な表現であるとみなされる場合でも、やはり「ドアをぴったりと閉めきって閉じこもっている小張」の様態 即ち施事“小张”の属性を描写していると解釈される。上の表現例(4-4)´が表すニュアンスとの相違は興味深い。

§ 5. “得”補語文の表現機能と属性描写 / 一回性動作描写

5.1 本稿では § 2、§ 3、§ 4 を通じて、補語成分“C”が“V”、“N1”、“N2”のいずれを叙述するかという観点から、)【N1 + V + N2 + V得 + C】、)【N1 + 把 + N2 + V得 + C】、)【N1 + N2 + V得 + C】の三つの表現形式について、統語的・意味的特徴を分析してきた。その結果、)式、)式、)式はそれぞれ以下のような統語的・意味的特徴を有しており、大まかな使い分けの傾向を見出すことができる。

5.2 まず、)式【N1 + V + N2 + V得 + C】についてその特徴を以下にまとめる。

補語成分“C”が他動詞“V”を叙述するとき、)式は成立する。)式における第一の動詞“V”はアスペクト辞や副詞の修飾を受けることができないことから、一般の述語動詞としての機能を失っていることが分かる。また、受事“N2”は総称 (non-referential) であることが多く、従って、)式は施事“N1”の恒常的・習慣的特徴 属性 を描写する傾向にある (2.1 参照)。

補語成分“C”が施事“N1”を叙述するとき、)式は成立する。この場合、既に実現済みのある一回性動作の結果、施事 (当事者) に何らかの様態を出現させることを表す (3.1 参照)。

補語成分“C”が受事“N2”を叙述するとき、)式は成立しにくい (4.1 参照)。

5.3)式【N1 + 把 + N2 + V得 + C】からは、以下のような統語的・意味的特徴を抽出することができる。

補語成分“C”が他動詞“V”を叙述するとき、)式は一定の統語的制約の下で成立する。このとき、受事“N2”は“把”によって導かれているため、definiteな存在である (2.2 参照)。

補語成分“C”が施事“N1”を叙述するとき、)式は成立しない (3.2 参照)。

勝川裕子

補語成分“C”が施事“N2”を叙述するとき、)式は容易に成立する(4.1参照)。

)式は、とも既実現済みのある一回性の事態に対して描写を行う表現形式であり、属性描写にはなり得ない。

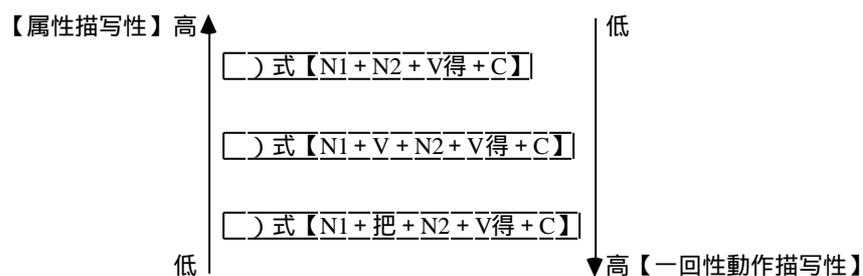
5.4)式【N1+N2+V得+C】からは、以下に挙げる統語的・意味的特徴が見出される。

補語成分“C”が他動詞“V”を叙述するとき、“N2+V得+C”が施事“N1”の属性を描写するという意味的制約の下で成立する(2.3参照)。

補語成分“C”が施事“N1”を叙述するとき、)式は成立しない(3.3参照)。

補語成分“C”が施事“N2”を叙述するとき、“N2+V得+C”が施事“N1”の属性を描写するという意味的制約の下で成立する。特に述語部分“N2+V得+C”が施事“N1”の身体の一部の様態を描写するとき、容易に成立する(4.2参照)。

5.5 また、)式、)式、)式の表現機能を属性描写と一回性動作描写の観点から捉えようとすると、大まかに以下のような傾向を見出すことができる。



つまり、)式【N1+N2+V得+C】は叙述対象が何であろうと、専ら属性描写を目的とする表現形式であることが分かる。一方、これとは対照的に)式【N1+把+N2+V得+C】は、叙述対象が何であろうと、専ら一回性の動作を描写す

“得”補語文に受事“N2”が表れる表現

る表現形式であるということが出来る。そして、その中間に位置し、叙述対象や文脈により、属性と一回性動作のどちらをも描写し得るのが)式【N1 + V + N2 + V得 + C】である。¹⁶

§6. 今後の展望

6.1 従来、“得”補語文に受事“N2”が表れるとき、)【N1 + V + N2 + V得 + C】、)【N1 + 把 + N2 + V得 + C】、)【N1 + N2 + V得 + C】などの表現形式があるとされながらも、その発話環境や使い分けについて論及されることは少なかった。そこで本稿では、これら三つの表現形式が選択されるメカニズムに関して、補語成分“C”が“V”、“N1”、“N2”のいずれを叙述するかという観点からそれぞれ統語的・意味的特徴の分析を試みた。しかし、本稿の分析結果は、大まかな傾向性を示したに過ぎず、discourse をベースとした言語資料による分析は今後の課題とする。

6.2 また、本稿では言及しなかったが、“得”補語文に受事“N2”が表れる表現形式には、本稿で取り上げた三つの表現形式のほかにも、以下に挙げるような補語部分が主述フレーズになるものも存在する。

(6-1) 孩子们吃桑葚吃得舌头都紫了。

[子供達は桑の実を食べて舌が紫色になってしまった]

(6-2) 她洗衣服洗得钮扣都掉了。

[彼が洗濯したら服のボタンがみな落ちてしまった]

(6-3) 小李做菜做得味道很好。[小李は味のよい料理を作る]

表現例(6-1)における補語成分内の主語“舌头”は、“孩子们”の身体の一部であり、表現例(6-2)における補語成分内の主語“钮扣”は、“衣服”の

¹⁶ 杉村1976は)式と)式の関係について、「<SVOVdeCD>という構文は、<VOVdeCD>が<S>の属性表現となり得、それに加えて<OVdeCD的S>の成立が可能な場合に限り、重複された動詞の最初の一個を落とし<SOVdeCD>という文体的異体をもちうる」と指摘している。

一部分である。また、表現例(6-3)における補語成分内の主語“味道”は“菜”の性質を表している。このような関係は「不可譲渡所有」を想起させる。補語が主述フレーズとなる場合、そこには如何なる統語的制約、意味的制約が存在するのであろうか。この点に関する詳細な分析は、他稿に譲ることとする。

【 引用文献 】

- 曹逢甫 1990. 《现代语言学论丛乙14 国语句子与子句结构》, 台湾学生书局。
- 李临定 1963. 带“得”字的补语句, 《李临定自选集》, 河南教育出版社, 12 - 47页。
- 刘月华等 2001. 《实用现代汉语语法》(增订本), 商务印书馆, 596 - 604页。
- 肖奚强・张亚军 1990. “N1+V得+N2+VP”句式歧义分析, 《语言教学与研究》第3期, 141 - 147页。
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》, 商务印书馆, 106 - 108页。
- 杉村博文・木村英樹訳 1995. 『文法講義 朱德熙教授の中国語文法要説』(朱德熙 1982の日本語訳), 白帝社, 182頁。
- 尾上圭介・木村英樹・西村義樹 1998. 「二重主語とその周辺 日中英対照」, 『月刊言語』, 90 - 108頁。
- 杉村博文 1976. 「他课文念得很熟 について」, 『中国語学』223, 92 - 97頁。
1994. 『中国語文法教室』, 大修館書店, 93 - 96頁。